



外国人と日本人の懸け橋になる！ ～ベトナム人窓口相談スタッフの活躍～

横浜市国際局政策総務課 風間 梨沙

横浜市の多文化共生拠点

2023年7月末現在、横浜市の外国人人口は11万2,762人に上り、市の全人口の3.0%を占めます。

横浜市では、市内の在住外国人のために外国人の支援や多文化共生の拠点となる公共施設「国際交流ラウンジ」を全12か所に設置しています。生活情報提供、相談を多言語で実施するとともに、日本語教室や学習支援教室の開催、通訳ボランティアの派遣、日本人との交流活動などを行っています。市民活動団体、NPO法人、公益財団法人などが運営にあたり、多くの市民ボランティアと協力・連携しています。

多文化共生の街 鶴見区

横浜市の北部に位置する鶴見区では、全区民5.0%の1万4,708人の外国人の方が暮らしており、市18区の中で中区に次ぎ、2番目に外国人数が多い区です。

鶴見区は、明治時代、臨海工業都市として埋め立てが始まり、工業地帯の中核として発展しました。そこで働くために多くの朝鮮半島や沖縄から人々が移り住み、その後、沖縄から南米に移民で渡った日系人が、沖縄の親戚を頼り鶴見区に集まりました。今では、多くの外国人の方が住むようになり、多国籍のレストランやスーパー

が立ち並ぶなど多文化を色濃く映し出す街となりました。

南米出身の方が多かった鶴見区ですが、ベトナム籍の人口がここ10年ほど大きく増加し、現在、鶴見区の外国籍の中では中国に次ぐ2番目に多い、1,718人のベトナム人が住んでいます。

鶴見国際交流ラウンジでは急増するベトナム人の増加に伴い、2022年度からベトナム人のレ・ダン・コアさんを窓口相談スタッフとして採用し、さまざまな取り組みを実施しています。

急増する在住ベトナム人への支援

レ・ダン・コアさんは、鶴見国際交流ラウンジで週4回、ベトナム語ができる窓口相談員として昨年からの勤務しています。コアさんが鶴見区に来たきっかけは、ベトナムの大学を卒業後、2017年に大学の交流プログラムで協定校であった横浜市内の大学に留学し、鶴見区にある「横浜市国際学生会館」に入居したことです。

大学留学中は、市内の小中学校を訪問し、ベトナムの文化や暮らしについての紹介や、学生会館の近くの潮田（うしおだ）地区のお祭りに参加し、お神輿を担ぐなど地域イベントなどにも積極的に参加しました。「異文化交流」や「外国人支援」に興味があり、日本の習慣や日本語ができない方たちの手助けをしていきたいと思い、窓口相談スタッフを志望しました。



さまざまな国のレストランやスーパーが立ち並ぶ鶴見区

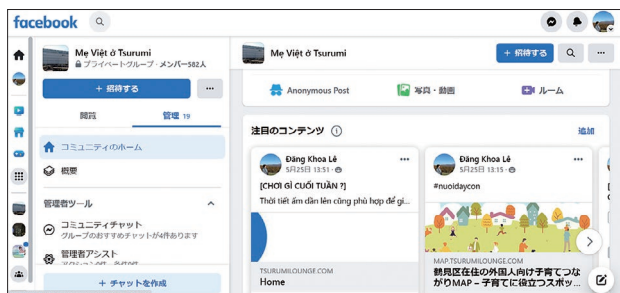


来館者からの相談を受けるコアさん



窓口相談スタッフとして働き始めてから鶴見に住んでいるベトナムの母親たちが子育てについて役立つ情報を発信している SNS グループの中で、有志で「お母さんの時間」というベトナム人母子が日本で安心して生活できるように支援するグループを新たに立ち上げました。

最初の活動として、ベトナムにつながる子どもたちが日本でも母国語を学べるようにベトナム語のクラスを鶴見ラウンジで開催する予定です。



鶴見に在住しているベトナム人の母親の子育て情報交換 Facebook

ベトナム最大 IT 企業との連携

ベトナム最大の IT 企業の日本法人である「FPT ジャパンホールディングス株式会社」の独身寮が鶴見区にあり、約 75 名の方が住んでいます。コアさんは、国際学生会館に住んでいた時に頻繁にこの寮に遊びに行き、交流・ネットワークを深めました。

2023 年 2 月、ラウンジとつなげるために本社がある東京に赴き、社内コミュニケーション&ユースユニオン部の方たちと今後、一緒に地域交流や連携していくことを話し合いました。そして、早速、6 月に開催された多



「FPT ジャパンホールディングス株式会社」の社内コミュニケーション&ユースユニオン部の方たちとラウンジとの連携について話し合いました

文化共生フェスタ 2023 では、同社の若手有志で構成されたバンドメンバーがベトナムのポップミュージックを披露し、ベトナム文化を紹介しました。



多文化共生フェスタでベトナムのポップミュージックを披露

コアさんは「日本で働くベトナム人が、日本のルールや習慣をきちんと理解し、日本の地域社会になじめるようにしていきたい」、「日本に住み続けたい」と思えるようにしていきたい」という想いから将来、ベトナム人が日本で安心して暮らせるようサポートする会社を立ち上げたいと考えています。

鶴見国際交流ラウンジでは、コアさんの他に中国、ネパール、ボリビア、ペルー、ブラジルなどのさまざまな国の方たちが窓口相談スタッフとして働いています。日本社会と外国人のことをよく理解している人材が活躍し、両者をつなげていく仕組みづくりの構築が重要です。今後、多文化共生のまちづくりを推進していく中で、こうした人材の育成を目指していきたいと考えています。



鶴見国際交流ラウンジの窓口相談スタッフの皆さん（左からネパール語、スペイン語、中国語、インドネシア語のスタッフ）